

平成 27 年度第 1 回自治体等 FM 連絡会議報告

平成27年7月9日から10日にわたり、「平成27年度 第1回 自治体等FM連絡会議（弘前大会）」が弘前市民会館において開催されました。本会議は、平成22年2月に自治体のFM実務担当者の発意によって設立されたもので、その時々に必要な知識や情報の共有を図ることを目的に幹事自治体（H26～ 群馬県、奈良県、貝塚市、宮崎市、弘前市）が企画・運営してきたものです。今回は、「FMは計画策定から実行へ！」をテーマに開催し、両日を通して全国から232名の皆様にご参加いただきました。

平成26年の総務省による公共施設等総合管理計画（以下、総合管理計画とする）の策定要請を受け、全国的にFMに取り組み始める自治体が年々増え、その裾野も広まりつつあります。平成26年度の宮崎大会では、総合管理計画にどう取り組むのかについて、先進自治体によるパネルディスカッションや進捗度合に合わせた分科会を実施することで内容の充実を図ってきました。

今回は、実行段階にある自治体の取り組みについて理解を深めるとともに、今後さらに重要性を増す公民連携に関する講演に加え、昨年度好評だったテーマ別による分科会を実施しました。

○弘前市の取り組み紹介

弘前市では「市民に愛され親しまれる公共施設を次世代に継ぐために」をスローガンにFMを推進している。今回は取り組み事例として、下水処理場の統合による更新費用削減や、既存施設の有効活用事例（文化財施設のカフェへのコンバージョン、弘前城外堀の花いかだの形成による観光資源の創出等）、小学生対象の出前講座などについて弘前市長自ら説明を行った。

※発表者 葛西 憲之（弘前市長）

○FM実行段階での取り組み事例

現在、総合管理計画やFM基本方針などを策定している自治体数も全国的に増えつつある。各種計画策定後の実行段階における具体的な取り組みについて、習志野市の吉川氏から「習志野市公共施設再生計画」を例にお話いただいた。

※発表者（敬称略） 吉川 清志（習志野市資産管理室）

○「公」「民」双方の立場から

公共FMを実行する段階において、公民連携が必要不可欠となる。北東北開催ということもあり、今回は、公民連携事例として岩手県紫波町の「オガールプロジェクト」について、行政（紫波町）と民間（オガール紫波株式会社）の双方の立場からご講演いただいた。



写真1 葛西 憲之 弘前市長 講演

紫波町の高橋氏には、プロジェクトの実施に至る経緯や庁内外での合意形成、取り組み内容についてご説明いただいた。オガール紫波株式会社の岡崎氏からは、民間の立場からのプロジェクト内容についてお話いただいた。また、公共FMに求められる要素としてコストカットのみではなく、公共施設において利益を生み出す（稼ぐ）ことが重要であるという話には、非常に参考となったという意見が多く聞かれた。

※発表者（発表順、敬称略）

高橋 堅（紫波町企画課）、岡崎 正信（オガール紫波株式会社）

○テーマ別での分科会

各自治体の取り組み状況やそのタイプにより、必要とする情報は様々である。今年度は、計画保全、広域連携、ベンチマーキング、リノベーション施設見学と幅広い構成とするよう心掛けた。また、リノベーション施設見学については、対象施設の青森県立弘前工業高等学校が近接していること、そして会場である弘前市民会館自体がリノベーション施設であることから、一度に両方の施設を見学することができ、好評を得られた。

※発表者（順不同、敬称略）

【計画保全】吉川 博之（大津市都市計画部住宅課兼総務部公共施設マネジメント推進室）

【広域連携】飯島 健一（小平市企画政策部行政経営課）

【ベンチマーキング】枝松 久雄（流山市総務部財産活用課）・建築保全センター

【リノベーション施設見学】駒井 裕民（青森県行政経営管理課）・田村 嘉基（弘前市岩木総合支所、元弘前市民会館長）

○スピンオフ企画（紫波町視察）

初めての試みとして、会議の翌日にオガールプロジェクトに関する紫波町視察（紫波町役場、オガールベース等視察）も実施した。こちらにも複数の自治体からご参加いただいた。

※説明者（敬称略）

高橋 堅（紫波町企画課）、中村 重雄（オガール紫波株式会社）

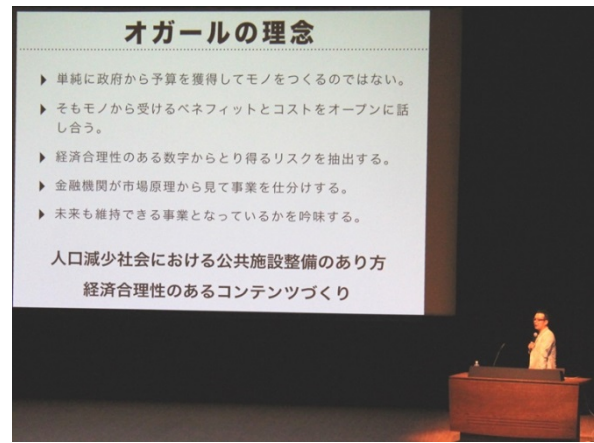


写真2 岡崎 正信（オガール紫波株式会社）氏講演



写真3 会議の様子（分科会）